知られざる戦国武将の地　能登川須田地区を知る！！

令和7年5月 13 日（火）

①朝鮮人街道と法華塔

中山道の脇街道。野洲市行畑で中山道から分岐し、彦根市鳥居本で合流します。

徳川家康が関ヶ原の戦いに勝利した後、上洛する際に利用した。このため縁起が良い道と認識され、3 代将軍家光が上洛する時も利用し、沿道には永原御殿（野洲市）と伊庭御殿（東近江市）に将軍休息所を設け、将軍専用の道とされ参勤交代での大名使用は認めず、朝鮮通信使のみ使用しました。

朝鮮人街道の南須田の集落の入口に摠見寺の僧が一石に一字ずつ書き写した法華経を埋めた経塚の石塔(文政5年(1822)建立）があります。

②超光寺と郡境碑

超光寺は浄土真宗本願寺派に属する寺院で、境内から安土城跡を望めます。

超光寺の表門は安土城内にあった摠見寺の裏門で、安土城・摠見寺の火災の際に消失を免れており。明治 13 年（1880）に移築。摠見寺、さらには安土城の歴史を知る上からも数少ない現存する建造物で、滋賀県指定文化財に指定されています。

超光寺の近くにはかつて南須田町が安土山内のある摠見寺の領地であったことを示す「従是南摠見寺領」と刻まれた石碑が建っています。

③須田川

東近江市北須田町、繖山(きぬがさやま)の麓に発し北西流、伊庭内湖に注ぐ。

北須田町内の川は三面張り、常時の水量は少ないが、春になると堤防にある桜が満開になります。

④守國神社

守国神社は北須田の氏神で、守国神社には祭神の三枝守国とその家系に関する古文書が数多く残され、社務所前の石碑に社歴が刻まれています。

初代三枝虎吉は甲斐国（山梨県）で武田信玄の重臣だったが、武田氏滅亡後は徳川家康に仕え、代々幕府の直参旗本に。元禄 11 年（1698）に 6 代目守相が領地替えで近江三郡（神崎、蒲生、野洲）内に合計 7000 石を知行、内 2000 石の伊庭に代官所を置いた。北須田もこの時点で三枝氏が領主となり、明治までその支配下にありました。

三枝家が江戸屋敷より近江に移住するとき、代々崇敬して来た守国大明神を明治 2 年（1869）に御神鏡・由緒系図・当地への遷座證文などを北須田村民が受け、現在の地に神社を移しました。

三枝家の子孫は明治期に断絶していますが武田信玄判物（三枝惣四郎宛・永禄八年三月一〇日）などの古文書（「三枝家文書（東近江市指定文化財）」）が守国神社に現存しており、東近江市能登川博物館に寄託されています。

⑥五十遺跡

やわらぎの郷公園の南側、繖山の北斜面の麓部分の小字名「五十」にある遺跡で、石垣と平坦面が存在しています。

昭和 61・62 年に「やわらぎの郷公園」整備事業に伴う発掘調査が実施されたが観音寺城や安土城に伴う時期の遺構や遺物は検出されておらず、用途は不明です。

⑤五十余州神社

五十余州神社は、織田信長が将軍・足利義昭を擁して上洛のとき、信長軍と佐々木六角氏との戦いになり、観音寺城落城の際に敗れた佐々木六角氏の家族・家臣 50 余人が須田川原で自害しました。その「佐々木六角一族五十余人之霊神」を御祭神として祀っています。

近くには「須田不動」という不動尊を祀る祠がありといい、滝行修行が行われていた「不動の滝」があります。